

アルツハイマー病による認知症/軽度認知障害(dementia/mild cognitive impairment)

- ・認知症は認知機能の低下により日常生活に支障をきたした状態を指し、代表的な診断基準として、Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders-5(DSM-5)(表1)、National Institute on Aging-Alzheimer Association(NIA-AA)基準がある。軽度認知障害(mild cognitive impairment :MCI)とは、認知機能の低下はあるが、基本的な日常生活は自立している状態を指す。
- ・「認知症疾患診療ガイドライン2017」によると、認知機能障害を評価する際の評価尺度として、Mini Mental State Examination (MMSE)が広く用いられている。MMSEは見当識、言語性記憶、全般性注意などに関する項目を含む、30点満点で減点式の尺度である。
- ・認知症の治療は認知機能の改善と生活の質向上を目的として、薬物療法と非薬物療法を組み合わせで行う。
- ・軽度アルツハイマー型認知症(AD)の認知症症状の抑制のために使用可能な薬剤はコリンエステラーゼ阻害薬であるドネペジル、ガランタミン、リバスチグミンの3種類があり、アルツハイマー病によるMCI及び軽度ADの進行抑制のために使用可能な薬剤にはレカネマブがある(表2)。
- ・ドナネマブ(ケサンラ)はレカネマブと同様に、アミロイドPET、脳脊髄液(CSF)検査、又は同等の診断法によりアミロイドβ病理を示唆する所見が確認され、アルツハイマー病と診断されたMCI及び軽度ADの認知症患者に、アルツハイマー病によるMCI及び軽度ADの進行抑制を目的として使用される。

表1 DSM-5による認知症の診断基準

- A. 1つ以上の認知領域(複雑性注意、遂行機能、学習および記憶、言語、知覚-運動、社会的認知)において、以前の行為水準から有意な認知の低下があるという証拠が以下に基づいている:
- (1)本人、本人をよく知る情報提供者、または臨床家による、有意な認知機能の低下があったという概念、および
 - (2)標準化された神経心理学的検査によって、それがなければ他の定量化された臨床的評価によって記録された、実質的な認知行為の障害
- B. 毎日の活動において、認知欠損が自立を阻害する(すなわち、最低限、請求書を支払う、内服薬を管理するなどの、複雑な手段的日常生活動作に援助を必要とする)
- C. その認知欠損は、せん妄の状況でのみ起こるものではない
- D. その認知欠損は、他の精神疾患によってうまく説明されない(例:うつ病、統合失調症)

表2 軽度ADおよびアルツハイマー病によるMCIに使用可能な薬剤一覧

		効能・効果
コリンエステラーゼ阻害薬	レカネマブ	アルツハイマー病によるMCI及び軽度ADの進行抑制
	ドネペジル	アルツハイマー型認知症及びレビー小体型認知症における認知症症状の進行抑制
	ガランタミン リバスチグミン	軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制